

まえがき

名古屋大学年代測定総合研究センターは、この平成11年度末で時限を迎えた年代測定資料研究センターを拡充して、平成12年4月1日から10年間の時限で発足した学内共同利用施設です。年代測定総合研究センターは、2台のタンデトロン年代測定装置を有する世界唯一の機関として、タンデトロン年代研究分野及び新年代測定法開発研究分野の2分野を構成してユニークな研究活動を行うことになっております。

タンデトロン年代研究分野では、 ^{14}C 年代測定から約6万年前までの地球環境変動と人類文化史についての研究を行うとともに、新年代測定法の開発を ^{14}C 年代から支援します。また、活断層や火山の活動周期をより細密な年代測定から解析する研究や ^{14}C 濃度の時空変動の解析から近未来の地球環境予測に関する研究を進める計画です。新年代測定法開発研究分野では、 ^{10}Be ・ ^{26}Al ・ ^{129}I などを利用した新しい年代測定法の開発を行って、これまで年代決定ができなかった約6万年前から数百万年前までのイベントを解析する研究を進めるとともに、CHIME法等を駆使して地球誕生までの過去46億年の地球史を詳しく研究する計画です。

年代測定総合研究センターでは、自己点検・評価の一環として、年代測定資料研究センターから引き継いで毎年1回年度末にタンデトロン加速器質量分析装置を利用した研究の学際シンポジウムを開催し、その講演内容を含めた論文集を業績報告書として出版することになりました。通算13回にあたる平成12年度のシンポジウムは2月7日と8日の両日に名古屋大学シンポジオンホールで開催いたしました。学内外から107名の出席のもとに4件の特別講演と16件の一般講演が行われ、活発な討論が繰り広げられました。今回、ここに名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(XII)を刊行する運びとなり、ご協力いただいた関係各位に厚く感謝いたします。

名古屋大学年代測定総合研究センターでは、高性能なタンデトロン年代測定装置2号機による ^{14}C 年代測定の実施に加えて、より長寿命の ^{10}Be や ^{26}Al などを用いる新しい年代測定法の開発研究やCHIME法・K-Ar法・Rb-Sr法等を用いた年代研究ができる研究体制を整えつつあります。関係各位の一層のご支援・ご協力をお願いする次第です。

名古屋大学年代測定総合研究センター長
鈴木和博